駅前ビルの鉄骨を施工 若手人材の育成が課題

大型ビルや建築物など重量鉄骨の製造工事を手掛ける**松井工業**（福岡県糟屋郡宇美町）は、ことし4月開業の博多駅前「JRJP博多ビル」の鉄骨施工を大手総合建設会社の下、昨年3～12月にかけて行った。昨年12月、社長に就任した**松井隆明社長**は「駅前で車両交通量の多い中、市民に細心の配慮を重ねて順調に終えた」と語る。

同社は九州・沖縄をはじめ、関東圏など年間40－50件を受注する。建設業界は、2020年の東京五輪を一つの契機に再開発や耐震建て替え工事が進み、近年は受注が増えて活況を呈しているが、一方で業界の人手不足は深刻だ。現在は団塊世代など熟練者が活躍する中、次世代への技術継承は急務で、「工法は常に進化するため、それに見合う能力を持った社員が必要」と、松井社長は若手人材育成に力を注ぐ。また今後、国内の同市場に海外企業の参入が予想され、これには「品質、納期、安全面の徹底など、日本企業にしかできない仕事で臨む」と話す。

11月新スタンドがオープン 趣味のマラソンにも意欲

コメダ珈琲店のFC事業を展開する**増田石油**（福岡市）は、今年中に福岡で1店舗、熊本で2店舗、新規オープンさせる計画という。また、主力事業のガソリンスタンド（GS）は、11月に福岡県内に久しぶりに新規オープンさせる予定で、業界全体でGSの閉鎖が続く中での明るい話題に、**増田成泰社長**の表情も緩みがちだ。

新スタンドは、24時間営業のセルフ形式で、セブンイレブンが併設される。基本的に、スタンドには人員を配置せず、コンビニの店員が空いた時間で管理業務を行うという。増田社長は「スタンドとコンビニのシナジー効果はもちろん、従業員が2店舗を管理するため、人件費を圧縮するのが狙い」と語る。

一方、趣味のマラソンは、昨年11月に宮崎、12月に福岡、今年に入ってからは、2月に北九州、3月に鹿児島とほぼ毎月のようにフルマラソンに出場し、ここ2回は4時間を切るサブ4を達成している。しかし、自己ベスト3時間48分の更新は達成できなかったようで、「今年の走り納めになる『さが桜マラソン』でぜひ自己ベストを更新したい」と何々ならぬ意欲を見せている。

ベトナム進出した企業間で課題共有を

ベトナム人を雇用したり、同国での事業展開を考えている熊本県内の企業4社が、**日越協同組合**（熊本市）を設立した。**藤井淑人理事長**は「単に雇用する側とされる側という関係ではなく、組合員同士が連携して相互の理解を深めることで、職場のパフォーマンスが上がるよう支援を行っていきたい」と話している。

組合を設立したのは、弁当・総菜のヒライ（同）など。ベトナム語の通訳・翻訳事業を行うベトナムトレーディング（同）の澤村ゆり社長から理事長就任の打診があり、「（本業の）人材派遣事業で培ってきたノウハウが生かせるのでは」と引き受けた。

藤井理事長は、「県内企業の中には、人材不足に悩んでいる企業も数多くある。そんな企業にとってベトナム人労働者は貴重な戦力となる」と話しており、「ベトナム製品の共同購買事業のほか、将来的にはベトナム人労働者の受け入れ仲介なども行っていきたい」と話している。

起業家専用シェアハウスで経営者の〝卵〟支援

不動産売買・仲介の**九州レップ**（福岡市）はこのほど、福岡市西区に起業家を対象としたシェアハウス「ディスカバリー姪浜ウエスト」をオープンした。**白砂光規社長**は、「福岡市が創業特区を打ち出したこともあって創業熱は高まっているが、創業の悩みなどを語り合う場は少ない」ことから、「それなら」と起業家支援に乗り出した。

九州レップは、首都圏や外資系の不動産ファンドなどへの情報提供、不動産仲介が本業で、外資系ファンドに勤務していた白砂社長が2010年に創業した。その一方で、昨年からシェアハウス事業にも乗り出しており、すでに英語を学びたい人向けのシェアハウスをオープンしている。起業家専用は第2弾で、施設内にはセミナールームや撮影スタジオなどを設置しているほか、定期的に英会話レッスンも受けられる。

白砂社長は、「今年7月には英語圏以外の外国人対象のシェアハウスをオープンする予定で、三つのシェアハウスの交流事業なども行っていきたい」と話している。

〝第二の心臓〟を動かして「美と健康」両立ソックス

美容コンサルティング事業の**ワン・ラブ**（北九州市）の**尾崎しのぶ社長**は、「美と健康は一対のもの」と言う。

年齢を重ねてもみずみずしく張りのある素肌は、生き生きとして活力のある心身から成り立っている。そこで、同社が提案しているのが「段階圧縮ハイソックス」。

足首に高い圧力をかけ、ふくらはぎから太ももにかけて少しずつ圧力を下げるよう設計してあるので血行を促し、むくみの予防につながる。足全体に心地よくフィットし、フットワークも軽やかになる。

座ったまま・立ったままの姿勢が続く仕事では足に負担をかける。このソックスは事務職や、店舗で接客を行う女性に引き合いが多い。

俗に足は〝第二の心臓〟という。人体の筋肉は三分の二が下半身に集中している。その筋肉を動かす（歩く）ことが、心臓と同じように全身への血液の循環を促すためだ。「足元と歩くことを見直すことで美と健康は両立、生活の質は高められる。これは男性にもいえること」と言葉を付け加えていた。

九州各地で産業ガス提案 迫力映画観賞で気分転換

産業ガス製造大手の**大陽日酸九州支社**（福岡市）の**栗下敏一支社長**は「九州は地域ごとに酸素・窒素・アルゴンの提案の可能性がある」と話す。

実際、北部に製鉄・自動車・造船、南部は焼酎・肉用牛・ブロイラーなどの製造拠点が広がり、農業産出額と養殖生産額でそれぞれ全国の2割以上を占める食糧供給基地でもある。製造の過程では原料ガス・雰囲気ガス（空気を遮断するために使うガス）が欠かせない。九州各地で「長期的な効率性や生産性をにらみながら、最適のソリューションを進める」ことに余念のない毎日だ。多忙を極める中で、ビジネスのオフタイムには「映画館での映画観賞に出掛ける」。

最近見た中で、印象的だったのは「ブリザード」。冬の大西洋で大吹雪に遭い巨大タンカーが遭難。強風と高波の中で決行された人命救出を描いており、実話に基づいた作品だ。「こうしたものは、映画館の大画面・高画質映像で迫力と臨場感を楽しまなければ。それが最高の気分転換」と話を結んだ。

着実なオリーブの普及 長期的に後方から支援

一般社団法人**九州オリーブ普及協会**（福岡市）は「九州に100万本のオリーブを植樹する」ことを事業目標に掲げて、苗木の輸入と栽培、農家のネットワーク化や技術指導などに取り組んでいる。近年は自治体からの注目度が高まっており、今年度だけで九州の102市町村がオリーブの木を定植した。**百富孝行理事長**は「オリーブ栽培が地方を元気にする手段として認知されつつあり、今後も事業の拡大が期待できる」と語る。

百富理事長によれば、オリーブ栽培に関心を示しているのは「全産業に占める1次産業のウエートが高く、新たな基幹作物を検討